ＲＰＧから逃げ出せ

瑠魯

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ＲＰＧから逃げ出せ

【Ｎコード】
Ｎ２７４０Ｊ

【作者名】
瑠魯

【あらすじ】
これは、平凡な生活を命の次に望む主人公の一大逃走劇である。

第一章　妖精

これは、平凡な生活を命の次に望む主人公の一大逃走劇である。

‡

「お願いします。私たちの世界を魔王の手から救ってください」
「嫌です、果てしなく」

突如俺の部屋に現れた妖精と名乗る美少女に、俺は意志を伝えた。

しかし、

「そんなこと言わずに、お願いします。私たちの世界を魔王の手から救ってください」
「嫌です、果てしなく」

「そんなこと…」
「嫌です、果てしなく」

俺が何度断り続けても、妖精は諦めようとはしなかった。何度も同じセリフを繰り返す妖精に、俺は次第に呆れと恐れを感じてきた。

「そんなこと言わずに、お願いします。私たちの世界を魔王の手から救ってください」

俺は黙秘権を使うことにした。こんな永遠ループ、いつまでもやっていられない。と思い時計を見てみたが、時計の針は止まっていた。時計が壊れているのかと思いテレビをつけてみたが、テレビの中の

時計も、止まっていた。お天気アナウンサーが今日の天気は晴れだと指して、止まっている。

どうなっているんだ？

「おい、妖精。お前何かしたのか」

「はい。けれどそれは、これからの勇者様には関係のないことです」

「関係ない？勝手に決めつけるな。俺はお前らの世界に興味もねぇし、勇者になる気もさらさらねぇんだよ」

「そんなこと言わずに…」

駄目だ、こいつには話しが通用しねぇ。というか、きっとこいつには予めたいした設定がされていないんだろうな。勇者と軽く会話ができる意外は、とにかく勇者を異世界に引っ張るのが役目らしい。

俺はとりあえず妖精を無視して、出掛けることにした。今日は友達と飲み会がある。異世界なんかより、ずっと素晴らしい現実が、俺にはあるんだ。

‡

妖精は相変わらず俺についてきて、しきりに訴えるのだが、全く聞く気にもならない。何度も同じセリフを繰り返すだけなんて、まるでロボットじゃないか。

道路をずっと歩いているのだが、大通りでは車が大渋滞していた。通行人も立ち止まっている。しかし様子が変だ。通行人や車に乗っている人間は、あたかも写真で切り取ったように、自然な姿勢で止まっているのだ。その奇妙さといったら他にはない。

そこで俺は、さっきテレビや時計が止まっていたのを思いだした。まさかとは思うが、それは疑いようがない事実だった。静かすぎる街、動かない人、止まった時計。

世界は今、静止している…。

‡

それから俺は街中を歩いてみたが、人はマネキンのように止まったままだった。それらが障害物のように進路を遮り、歩きにくい。視界の邪魔にもなる。

俺はゆっくり進みながら、かすかな希望だけを求めて、飲み会のある居酒屋に辿り着いた。しかし、扉が開かない。鍵が閉まっている訳ではなかった。少しだけ隙間があるのだ。それ以上は開かない。

この先には、俺の現実があるのに！俺は近くの路地から角材を持ってきて、梃の原理で扉を開こうとした。それなりに太く、丈夫そうな角材だったが、いとも簡単に折れてしまった。俺の力が強かった訳ではない。何か訳の分からないものが、邪魔している気がする。

すぐに俺は、後ろにいる妖精を睨んだ。

「その先に行くことはできません。この世界への未練が増すだけですから」

妖精は淡々と話す。　冷たく、白い声で話す。

「未練？」

「はい。勇者様が異世界に行く際には、この世界との繋がりを断ち

切らねばなりません」
「俺は行かないって言ってるだろ！」
「そんなこと言わずに…」
「俺の現実を帰せ！！！」
「…できません。これは既に確定事項なのです」
確定事項？ああ、そうか。元より俺に選択肢はなかったってことか。
それじゃあ俺は、いっちょ魔王でも倒しに行きますかね…
…なんてなるわけないだろ。
俺は折れた角材を手に取り、妖精に殴りかかった。妖精は避けることなく、俺の一撃を受けた。鈍い感触が手に伝わった。蒼い血が飛び散り、妖精はふらりとよろける。
「私…の命…なんて。私……の世界に比べたら…取るに足らないもの」
角材が静かに床へと落ちた。頭の中で何かが弾け、黒い液体が流れこんでくる。俺は間違ったことをしているのか？いや、正しいはずだ。それなのにこの罪悪感は何だ？おれは世界のために、平凡な日常のために…。
「勇者様…私たちの…世…界を」

第一章　妖精（後書き）

始めから少し暗くなってしまいましたが、当初の予定では明るいコメディー的な雰囲気になるはずでした。しかしやはり、世界一つが絡んでくると「断る」→「逃げる」→「妖精が諦めて帰る」的なオチはおろかなので、辞めました。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2740j/

ＲＰＧから逃げ出せ

2010年10月9日06時54分発行